

新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装型）の具体的使途や実施体制、効果検証の結果等について

【TYPE1】 クラウド型収蔵品管理等システム導入事業

■事業概要

実施年度	令和7年度
事業概要	クラウド型収蔵品管理等システムを導入し、文化財に関するデータベースを作成する。データベースの一部をウェブサイトやアプリで閲覧可能にし、資料館展示室や学校、市内各所で市民や観光客が興味に応じて情報を取得することで、文化財をより身近に感じ、シビック・プライドの醸成や関係人口の増加が期待される。個々の資料のデジタル化を進め、職員が自ら作業して習熟することで、持続可能なシステムの運用を図る。
具体サービス	【文化財データベース構築】 クラウド型収蔵品管理等システムを導入し、歴史民俗資料館の収蔵品をデータベースとして整備していく。併せて、市内各所に点在する文化財の情報も搭載する。さらに、関連情報や参考文献、写真の増補など、情報の充実化を図る。 【市民向けデータベース、アプリ】 文化財データベースの一部を「公開」設定とし、ウェブ上での検索、資料館での補足展示・解説、屋外にある文化財の解説、学校教材として利用等に用いる。「公開」設定とした資料を、スマートフォンアプリからも閲覧可能にする。屋外の文化財については、地図上に位置を表示して、案内にも用いる。

■具体的使途（経費内訳） 単位：千円

交付対象事業費	396
項目	金額
クラウド型収蔵品管理等システム使用料	396

■実施体制

名称	役割
新座市（歴史民俗資料館）	・ システムの調達、データベース作成、関連部署との調整、業務フローの検討
新座市（教育支援課）	・ 学校教育、副読本、教材など
新座市（シティプロモーション課）	・ 広報誌の作成、市公式ウェブサイトの管理、観光振興
新座市（デジタル市役所推進室）	・ 担当課との協議・調整
新座市文化財保護審議委員会	・ 利用状況等の報告、改善点の照会
文化財所有者	・ 著作権等の権利関係の承諾、資料提供 ・ 聞き取り調査等への協力
学校	・ データベースの活用 ・ 掲載情報、公開方法等の意見照会
ボランティア	・ 新規コンテンツの収集 ・ 屋外の文化財の見回り・ガイドツアー
サービス提供者（早稲田システム開発㈱）	・ クラウド型収蔵品管理等システムの提供

■効果検証の結果

KPI（指標）	単位	目標値（上段）			直近のKPIについて 【「KPI達成」の場合】達成のための取組内容や工夫及び次年度達成に向けた取組 【「KPI未達成又は未計測」の場合】達成（計測）できなかった理由及び次年度達成に向けた取組
		実績値（下段）			
		令和7年度	令和8年度	令和9年度	
ウェブサイトへのアクセス数	件	30,000	40,000	50,000	既存の台帳からシステムへの移管作業は4月から着手した。システム操作の習熟と、将来に渡るデータベースの基礎的な分類等を決定することに時間を要した。 スマートフォン向けアプリは11月から試験的に稼働を始め、ウェブ版データベースの公開は3月末となった。なお、アプリは他市町村との共同利用であるため、本市だけのアクセス数は計測できない。 公開情報の追加を継続し、キーワードやタグを付して、検索性を高めていく。また、わかりやすい解説文章の記述に努め、外国語への対応も検討していく。 学校教育においても資料を活用してもらえるように、教員向けの教材や、資料を活用した授業モデルの提案など、データベースの存在と活用方法を周知していく必要がある。
		63			
コンテンツの公開ページ数	ページ	1,000	1,240	1,480	収蔵品や市内文化財等の台帳をデジタル化することが大前提となる。次に、現物確認を含めた写真撮影を行い、所有者・管理者がいる場合は、権利関係の確認を行う。最後に、一般向けの解説文を記述して、ようやく公開資料となる。 初年度にシステムに登録した資料は4,000件を超えているが、公開の準備・調整が完了できなかったものが多い。 システムの習熟を高め、継承していき、資料の整理と公開を日常的な業務として定着させることが目標である。ただ拙速に公開数だけを増やすのではなく、正確な情報と権利関係の確認等、アーカイブ作成のための丁寧な作業を心がけていきたい。
		232			
利用者アンケートの満足度	ポイント	4	4.7	5.4	収蔵品管理等システムを利用した人の7段階評価満足度の平均値を計測するもの。ウェブ版データベースの公開が3月末となったため、アンケート用の入力画面まで準備できなかった。 コンテンツの利用だけを楽しんだ方が、わざわざアンケート入力までしていただけるかに疑念が残る。むしろ、何らかの不満があった場合に、入力画面を訪れて回答する、というバイアスも想定される。アンケートは強制ではないため、回答者に何らかの見返りを提供しなければ、回答数が増えない恐れがある。
		未計測			
歴史民俗資料館の入館者数	人	8,000	9,000	10,000	基準年（開館初年）と同等の入館者数を維持しているが、サービス提供開始が3月末となったため、数値への影響はないと考えられる。また、入館者数に最も影響を及ぼすのは、展示内容とそのPR活動であると想定されるため、サービスの利用を契機とした入館者数は少ないと考えられる。 資料のデジタル化とその公開によるコンテンツ提供がサービスの中心であるため、利用者は必ずしも来館者数に結びつかない可能性がある。ウェブ版データベースのアクセス数と合わせて評価し、利用の実態を把握することに努めたい。
		6,378			